



[特集]

あかり

～ 守る・愛でる・育む～

文明の象徴の一つに「あかり」がある。

獣から身を守るため「焚き火」から生まれた「あかり」は、その後「松明」「提灯」「行灯」など多様な灯具の出現により、生活の安心や育みをもたらした。

また、「あかり」が放つかがやきは人の心を癒し愛でる力を持ち、祭事や文化において「あかり」が重要な存在であることは変わらない。

1879年、エジソンの白熱電球の実用化によって飛躍的な発展を遂げた「あかり」は、今なお、その進化が止むことはない。そして、これまでよりも環境や人間に優しい、発光ダイオードなど高度な技術が用いられている。

人々が灯す「あかり」について、守る・愛でる・育むの視点から探ってみたい。



写真 初芝成應
(スペイン・トレド旧市街)